

小中高の学びの接続—いま、どのような 言語活動が授業に必要か

2016年度中部地区英語教育学会三重大会
シンポジウム

2016年6月25日(土)

鈴鹿医療科学大学

白畑知彦

(静岡大学、及び愛知教育大学大学院教育学研究科・
静岡大学大学院教育学研究科共同教科開発学専攻)

ektsira@ipc.shizuoka.ac.jp

中学校での英語教育に 焦点を当てます

- 中学校で学習する内容は、英語学習の基礎中の基礎です。
- 将来のためにも、ここをしっかりとおさえたい。

「どのような言語活動が 授業に必要か？」

について、

2種類の力を養成するための言語活動を提案

1. **基礎的な力をつけるための言語活動**
(最低限できるようにになりたい)
2. **発展的な力をつけるための言語活動**
(外国語を使う楽しさを味わう)

私の言う「基礎的な力」とは？

「教科書の英文が音読でき、そこに書かれている英文の意味が分かるようになる力」

私の言う「発展的な力」とは？

「各レッスンの新出文法事項、既存の文法事項、単語を駆使し、様々なタスク活動を通じて、クラスメートと4技能の能力向上を行える力」

本日のkey words

- 教科書の英文の音読活動
- 家庭学習での復習の重要性
- 有意味文脈でのタスク活動
- 協同学習 (ペアワーク、グループワーク)

- 気づきを促す指導とその後続く明示的説明
- 文法事項の深化による(小)中、高、大の接続

1. 基礎的な力をつけるための 言語活動を考える

英語嫌いを作らないためには： 方法は2つ

1. 「英語を教えないこと」

教えなければ、好きにもならない代わりに、嫌いにもならない。(これは、非現実的)

2. 「英語能力をつけてあげること」

英語嫌いの大半は、英語が分からなくなってしまった生徒です。英語がよくできるのに、英語が大嫌いという生徒はほとんどいないと思います。

⇒教科書の英文を音読できるようにし、達成感を味わう

英語を音読できることで達成感を 味合わせたい

- 英語が読める、聞ける、書ける、話せる、通じる、という達成感は、更なるモチベーションに繋がります。
- 使える英語を身につけることで英語（言語）に興味を持つ生徒が増えてくると思います。
- 英語の授業では、あくまでも「ことばの教育」を通じた異文化理解教育、人間教育だと思っています。

義務教育なのだから、クラス全員の 英語能力を向上させたい

- クラス全員の目標は、「教科書の英文が音読でき、意味が分かるようになること」
- 「漢文読み」ではなく、英文を前から意味を取れるようにする指導
- 教科書の英文が読めなければ、自律学習は難しい。
- 要点は、単調になりがちな音読を、様々な工夫をすることでバリエーションを持たせる(協同学習でのペア音読、穴あき英文、等)

2. 発展的な力をつけるための 言語活動を考える

クラスメートとのタスク活動

- 教室内という制限はあるものの、「**実際に使用する場面**」、または、「**できるだけそれに近い場面**」を設定して言語活動をおこなうこと、**だ**と思います。
- **教科書の音読の次には、有意味文脈での練習(タスク活動)**が不可欠です。

有意味文脈での練習（タスク活動）

- 相手に伝えたいことがあるから話しかけ、文字を書いて伝えようとする。
- 「実際に使用する場面」になっているのかどうかの判断基準は、「日本語で置き換えてみること」だと思います。
- その際、ぎこちなさを感じるのであれば、やはり、「本当のコミュニケーション活動」にはなっていないのだと思います。

例えば、 情景が浮かんでこない文

- He is as tall as his brother.
- This box is bigger than that box.
- This is the longest bridge in the town.

例えば、比較表現の練習ならば、

- 地元の自然(川、湖、山、建物、名勝など)
- 有名人物(タレント、スポーツ選手など)

文脈重視といっても、 中学生の生活は単調です

- 自分のことを正直に言う活動の他にも、色々な工夫が必要でしょう。

「〇〇に行ったことがある?」「今週末は何するつもり?」

- 誰かになりきる(有名人、動物等)
- 仮定する(お金があって、1週間自由だったら)
- 選択肢を与える(様々な職業、動作の絵など)

協同学習（ペアワーク、グループワーク） の推奨

- クラスメートがいるという利点を活かしたい
- クラス全員が活動する時間を増やしたい
- 2～3名での活動が良いと思う
- 5分程度で一旦区切るが良いと思う
- 沢山の相手とやるだけを目標としてはならない

家庭学習の重要性： 復習するは我にあり

- 授業時間の少なさを補うための家庭学習（宿題）
- 宿題は、「今日勉強した内容、これまでに勉強した内容の復習」を中心に
- 今日学校で学習した箇所の英文を「声に出して読んでくれること」
- 前課に学習したことの復習も含めたい。
- 教科書の丸写しや、全訳は「？」
- 2年生では1年生を、3年生では2年生と1年生の内容を復習

「宿題を出すと採点が大変で、益々仕事が増えるから出さない」と言われた先生がいました(事実)が、

- 教師は宿題をやってきたかチェックするだけで、採点する必要はないと思います。
- 協同学習の活用、ペア、グループでの採点や誤り訂正の方法

以上が、今日の私の論点でした

まとめれば、

- クラスの全員が、声に出して教科書の英文を読めるようにしてあげたい。
- 学校での英語学習の特色は、「クラスメートがいる」ということ。この利点を活かすためにも、ペアワーク、グループワークを土台とした言語活動を考えていくべきです。
- 家庭学習は必要で、復習中心にすべきです。

気づきを促す口頭導入と それに続く明示的説明の活用

- どのような意味を表す英語表現なのかを気づかせる指導
- いきなりルールを説明するのではなく、教師がoral introduction等で実際の使用例を示すことで、表す意味や、文法的特徴について考えさせ、推測させ、その意味やルールをペアで話し合いさせる。
- 言語に対する知的関心が高まる授業を目指したい。

日本の学習環境を考えた場合の 明示的指導の重要性

- 教えなくても無意識に身につく言語知識
⇒UGの原理と関連する文法規則
- 気づかせ、教えることから、次第に定着していく知識
⇒個別言語に固有の文法規則
⇒明示的指導をおこなう
⇒ただし、全ての項目に一律に有効ではない

白畑の考える 明示的指導の役割モデル

Kondo & Shirahata (2015, P99より引用)



例：代名詞や項の学習による 明示的指導、気づきによる接続

- 日本の小学生は、日本語で「彼」「彼女」を使わない。
 - ところが、英語を学習すると、急に「彼」「彼女」を使わせられる。
 - 本当に、「he = 彼」「she = 彼女」なのか？
 - 自分のことは何と呼ぶ？
 - 相手のことを「あなた」って言う？
 - 他の人のことは何て呼んでる？
- このような問い掛けから、代名詞について気づかせる

中学生のための気づき例

husband: I met a man called Mr. Suzuki this morning.

wife: Who is he?

夫:今朝、鈴木さんという人にあつたよ。

妻: 彼は誰ですか? ← これ、どう?

明示的指導により、気づきを促し、理解に 持っていく

中学生に対して：

- 項の省略(主語の省略、目的語の省略)について
- 英語は省略してはいけない。日本語は？
- 英語では、2度目の時は、代名詞に変える場合が多いことを意識させる
- じゃあ、日本語ではどうなのかな？
- 英語で書くときは、固有名詞を繰り返すのではなく、代名詞を使ってみよう、という明示的指導

明示的文法指導が効果を発揮する 学習者側の条件

- 教師の説明が理解できなければならない。
- 当該文法項目の規則が受け入れられる段階にまで英語の習熟度が到達していること。
- よって、分析能力の高くなる、小学生よりも中学生，中学生よりも高校生そして大学生に有効である。
- よって、小学生や中学生には、できる限り文法用語の使用を抑える方法で明示的指導をおこない、実際に使用する場面に即して沢山練習していく方法が良い。

用例を提示することで意味に 気づきやすい例1

- 現在進行形(日本語にも同じ概念があるため)

I'm walking (now). I'm running. I'm speaking English.
I'm teaching English.

You're listening to me. You're sitting on the chair. You're
listening to me. You're looking at me.

先生、今何言ってたと思う？

人間や動物が、何か動作をしている絵などを黒板に貼ってもよいでしょう。

用例を提示することで意味に 気づきやすい例2

- 受動態(日本語にも同じ概念があるため)

黒板に能動形と受動形が対になった絵を貼る。

This is a bear. His name is Taro. This is a rabbit. Her name is Yuki. Yuki is a girl but very strong. Yuki pushed Taro. So, Taro was pushed by Yuki.

中学生が知っていそうな本、漫画等を用意する。

Do you know this book? Yes, it is Hibana. Do you know the writer? Yes, Matayoshi. So, Matayoshi Naoki wrote Hibana. And, Hibana was written by Matayoshi.

基本的に、日本語に類似した概念のある項目では気づきを促したい

- その後、形式を板書し、視覚に訴える。

Taro is walking. 「進行形であることを知らせる目印」

Taro was pushed by Yuki.

「受動態であることを知らせる目印」

* 教えた後は、be助動詞の脱落に注意したい

文法用語で誤魔化すのではなく、その文法項目の持つ、本質的な機能の理解を促したい

「to不定詞」を例にして：

- to不定詞：名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法があるが、この用語は後回しで
- そもそも、「不定詞」とは何か？
- 「不定詞」があるなら「定詞」もあるの？
- I want
- Ken asked me
- Hanako has something

明示的に指導する際の1つの工夫として

- 教科書や参考書には、「このようにいふ」という例文が書かれている ⇒ 「肯定証拠の利用」
- といふか、肯定証拠しか書かれていない。
- 「このようには言わない」「言ってはいけない」という証拠(否定証拠)も利用できるのではないか？
- 「日本人がよく間違ってしまう言い方」を例示してもよいのでは？

よく間違える誤りを指摘する = 否定証拠を与える英文例

- *My family is five (people).
- *The pigeon was appeared from the box.
- *The train is stopping at the station.
- *Skytree is high more than Tokyo Tower.
- *The meeting begins from nine o'clock.
- I was at home yesterday. *Because it was raining.

文法事項の深化による 小中高大の接続

- 最初はおおざっぱな規則を、次第に複雑な規則を教えていく
- そのような体系的な教授法を作成すべきだと考えます。
- 現在の参考書は、全ての文法規則が同じページに同等に扱われているものが多い。
- 発達段階的に学習すべき内容をリストアップする

例1 テンス・アスペクト: will

- 第1段階:
 - willは未来を表すのに使用する。
 - willの意味は、be going toとほぼ同じ。
- 第2段階:
 - willとbe going to は表す意味が若干異なる。
 - 英語に「未来形」というものはない。
- 第3段階
 - willの基本的な意味は、「推測」である。
 - 単純現在形でも未来のことを表現できる。

など

例2 To不定詞

小学校:

「名詞的用法」のみ(用語の使用はない)

「～したい」「～になりたい」と言いたい時は、I want to ...
/aiwante/ って言うんだよ。

I'm hungry. I want to eat a hamburger.

I'm thirsty. I want to drink orange juice.

「今何したい？」 I want to sleep/watch TV, etc.

I want to be a singer. I want to be a soccer player.

To不定詞: 中学校

- 前の部分をより詳しく説明する働きがあることを、気づきを交えながら指導
- 「名詞的用法」「形容詞的用法」「副詞的用法」の実際の英文の導入と、有意味文脈での練習
- 前置詞toとの違い
- to不定詞の隠れた主語について気づかせる
- It is 形容詞 for 人 to do ...における、仮主語itはなぜ英語にあるのか、日本語との比較を入れて説明

To不定詞: 高等学校以降: 次第に複雑化してくる

- 結果を表すto不定詞
- It is 形容詞 for/of 人 to do ... の相違
- John tried not to make any mistakes. John did not try to make any mistakes. の相違
- 完了不定詞
- 代不定詞
- 形容詞／副詞 + enough to do
- Be to do
- 独立不定詞 (To tell you the truth, etc.)
- 疑問詞 + to do (what to do, where to go, etc.)

ご清聴ありがとうございました。

懇親会でお話ししましょう！